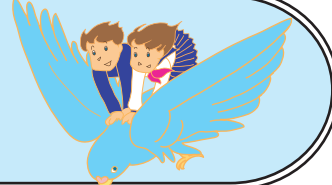


交通遺児育英会機関紙

©平成20年10月1日発行
発行・財団法人交通遺児育英会
〒102- 東京都千代田区平河町2-6-1
0093 (電話) 0 3 (3 5 5 6) 0 7 7 1
(H P) http://www.kotsujiji.com

君とつばさ



胸の内語り 親睦深める

つどい

20年度の「高校奨学生と保護者のつどい」が、8月22、23、24の3日間、千葉市のアパホテル&リゾートへ東京ベイ幕張と東京アイズニランドで開催された。今年度は、中国、四国、九州地区17県から40家族103人が参加した。同じ境遇にある奨学生、保護者同士が、日ごろ胸のうちに秘めた不安や悩みを語り合い、親睦を深めた。



中・四国、九州から40家族103人参加

初日は、午後1時15分から開会式。石橋健一専務理事のあいさつに続いて、数学者ピーター・フランクルさんが、「21世紀に羽ばたくための学習法」と題して講演。その後、中根晃理事長、安齋省一理事を始め、職員、心塾生がリーダーになって奨学生、保護者がそれぞれ6グループに分かれ、懇談会を開いた。

奨学生グループでは、卒業後の進路、将来就きたい職業、育ててくれた人に伝えたいことなどをテーマに話し合い、「つらい思いをしているのは自分だけじゃないことに気付かされた」「みんなそれぞれ頑張っているのが分かって、自分も励まされた」「どれだけ尊い命を失ったか身に染みて分かった。これからの人生をどう過ごすべきかを考えさせられた」などの感想が寄せられた。

最後に、市村智一事務局長が懇談会の総括を、河田修一君が心塾の紹介をして、初日の行事は終了。2日目は、終日アイスニランド。曇りがちで、昼からは小雨に見舞われたが、どの親子も楽しそうにアトラクション、パレードを思いっきり楽しんでた。最終日は、中根理事長の「新たな飛躍を期して」と関東地区を対象に千葉市で開催された。

「おとわり」奨学生Q&A「高校生の声」「平河町だより」は休みます。スへ30人、エイ・エフ・エス(AFS)日本協会の協力によりカナダ、オーストラリアにそれぞれ2人を派遣した。当初、研修生たちは、ホストファミリーとの意思疎通に悩み、語学力のなさを思い知らされていたが、課外活動のスポーツや行事への参加を通じて同年代の若者との触れ合いのなかから、直に相手国の歴史や文化を学び、貴重な体験をするこ

森井通世氏、監事に就任



昨年11月に辞任した吉田正輝監事の後任に、森井通世氏(65)が5月19日の評議員会で選任された。〈森井氏の経歴〉昭和45年、監査法人中

通世氏(65)が5月19日の評議員会で選任された。〈森井氏の経歴〉昭和45年、監査法人中

散)入所。昭和49年、公認会計士登録。昭和56年、同法人社員就任。平成18年、同法人退所、現在に至る。

本会理事の田中勲氏(社)日本自動車工業会理事・事務局長は、5月31日付で辞任した。

心塾や準備金で質問

今年度の相談会スタート

平成20年度の「高校奨学生と保護者の相談会」がスタートした。1回目は7月12、13日に和歌山県で、次いで9月6、7日には北海道で実施した。目立ったのは学生寮・心塾についての質問。京都の美大への進学を希望しているという奨学生の保護者には、「パンフレットには載せていないが」と前置きして、京都にも千本二条と桃山御陵に本会の寮があることを説明、検討を促した。

また、「心塾は就職先を斡旋してくれるのか」という質問には、「一切していない。ただ模擬面接を実施して就活の応援はしている」と回答した。このほか進学準備金につ



和歌山県



北海道



読むともなく新聞を繰っていったら、「優しい大人」と題した投書が目に入った。疲れている大人たちのために、電車では座らないという小6の女の子が、逆に席を譲ってくれる優しい大人がたくさんいるのをうれしく思う、といった内容のものだった。▼今や日常茶飯事の官民間わない数多の不祥事、そしてあの謝罪風景。それは教育界にまでも及んでいる。それにもかかわらず、このような目で大人を思ってくれている女の子に、私たちは顔向けができない。これらの人々を、その地位の人間として許容しているのは私たちが大人なのだから。▼人間の天性は悪。利益によって左右される一面がある」とするのは荀子だが、続けて「指導者と法による指導で、自主規制が働き、社会が安定する」と説かれても、その指導者そのものに不安を感じざるを得ない。▼ただ言えるのは、そんな世の中でも、大人を信じてくれる子どもたちを真切らないために、私たちは一人ひとりが、「優しくて、信頼できる大人」になるように努めなければならないということである。▼奨学生の皆さんの前にはいる。確かに立派な大人たちがたくさんいる。何の見返りも求めず、ただ将来を思ってくれている全国のあしながおじさんたち、そして人知れず寄付をしてくださる方々。▼「心でしか見えないんだ。本質的なものは見えないんだ。サン・テグジュペリが『星の王子さま』の中で狐に語らせた言葉は重い。



1日目

今年も飛行機利用者が多いためか、12時30分の受け付け開始時には、閑散としていた。それでも、羽田空港から参加者に乗せたバスが到着するたびに、受け付けは多忙を極める。

午後1時15分、全員到着して開会式。20年度の「つどい」の幕開けだ。

まず、石橋健一専務理事があいさつ。

「つどいには40年の歴史があります。かつては奨学生のみでしたが、保護者も参加するようになって今年で10年目です。この後懇談会を開きますが、近年改善された奨学金選抜制、進学準備金の貸与時期を早める、関西に学生寮を開設するなどの、この懇談会でお母さん方から出されたご意見が、21世紀に羽ばたくための「学習法」。

「21世紀は、専門家の世紀になるから、皆さん方も専門家を指してほしい。専門家といっても、普通の能力の人間でも、人生をかける気で努力すれば到達できる。大切なのは、自分の将来のためにどれだけ時間を捻出できるか。大切な時間を自己管理し、学ぶ面白さを理解し、その過程を楽しんでほしい」

流暢な日本語で、理路整然と語るフランクルさんの口調に、衣装とのアンバランスも忘れて聞きほれてしまう。最後に、お得意のジャグリングを披露し、会場は一気に和む。

休憩後の午後4時から、奨学生、保護者各6グループに分かれて懇談会を開いた。

奨学生グループで卒業後の進路を聞くと、今年の奨学生は大半が大学、短大、専門学校などの進学希望だった。将来希望する職業は、学校の先生、弁護士、ツアーコンダクター、理学療法士など多種

つどい特集



クルさんが、派手なステージ衣装で登場し、参加者はあつげにとられる。演題は「21世紀に羽ばたくための学習法」。

「21世紀は、専門家の世紀になるから、皆さん方も専門家を指してほしい。専門家といっても、普通の能力の人間でも、人生をかける気で努力すれば到達できる。大切なのは、自分の将来のためにどれだけ時間を捻出できるか。大切な時間を自己管理し、学ぶ面白さを理解し、その過程を楽しんでほしい」

流暢な日本語で、理路整然と語るフランクルさんの口調に、衣装とのアンバランスも忘れて聞きほれてしまう。最後に、お得意のジャグリングを披露し、会場は一気に和む。

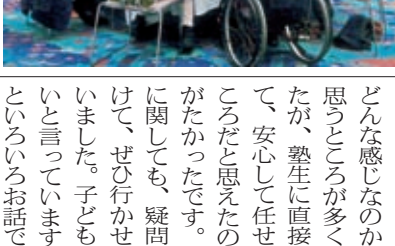
休憩後の午後4時から、奨学生、保護者各6グループに分かれて懇談会を開いた。

奨学生グループで卒業後の進路を聞くと、今年の奨学生は大半が大学、短大、専門学校などの進学希望だった。将来希望する職業は、学校の先生、弁護士、ツアーコンダクター、理学療法士など多種

懇談会の様子

- A～E 奨学生グループ
- F～K 保護者グループ

安齋省一理事も奨学生グループに参加して熱心に討議(左上の写真)



参加保護者の声

◆知らない人との交流はとても不安でしたが、参加して本当良かったと思えます。皆さんのそれぞれの事情や思いを少しでも聞けて、悩んでいるのは皆同じだと感じました。心塾についで、どこか、皆さんの話を聞き、元気をたくさんもらいました。

◆小学生は育英会の全額負担で参加させていただきとてもありがたかったです。中学生になると全額自己負担は、まだ一人で留守にさせておきたいので、義務教育までは無料または少しいちと言っています。皆さんの援助があればよいと思います。

◆懇談会で皆さんがお持ちの思いを話すには、少し時間が足りなかったように思えます。そうかといって、長くなること心重さが過度になり、そのバランスが難しいな、と思いました。お世話になり、大変ありがとうございました。

◆理事長さんと話ができて、とても良いアドバイスをいただきました。加えて、障害を持つ主人も連れてくることでも心配でしたが、おかげさまで大丈夫でした。リフレッシュできました。

◆参加して良かったと思えます。育英会には改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。私たち親子も育英会をより理解し、頑張る勇気が出ました。本当にありがとうございました。

◆普段話せないことも話ができよかったです。同じ立場の方、もう少しゆっくり話ができればなお良かったのですが、3日間、ありがとうございました。

アンケート調査

今年の参加者(奨学生37人、保護者36人)に記入してもらったアンケート結果を簡単に述べておこう。

Q1 参加してみよう? 奨学生82%、保護者92%が参加して「よかった」。

Q2 よかったところ? 複数回答可(奨学生と保護者とは回答内容に違いあり)の中で、奨学生で50%占めたのが、「他の人の将来計画を聞いて自分も頑張らねばと刺激を受けた」「懇談会が楽しく、同感、納得できることが多かった」。

Q3 改善すべき点? 複数回答可で、奨学生42%でトップ、保護者31%で2位だったのが、「初日は朝早く家を出て、講演、懇談会とスケジュールが厳しかった」。

Q4 講演について? 「とてもよかった」「よかったが併せて、奨学生78%、保護者71%とおおむね好評であった」。

Q5 開催時期は? 夏休み中が、奨学生61%、保護者69%。夏休み中でも、奨学生は前半希望、保護者は後半希望が多かった。これに次ぐのが、時期を問わずOK、春休みの順だった。

Q6 つどいのプログラムについて? 奨学生は74%、保護者は92%が「適当である」と回答。



懇談会を総括する市村智一事務局長



心塾を紹介する河田修一君

午後7時、市村智一事務局長が、「懇談会は意見交換の結果よりも過程に意義があり、いろいろな意見交換の中から、各自がヒントをつかんでいってほしい」と、会議をまとめた。

最後に、心塾東京の寮長・河田修一君が東京寮を、市村事務局長が関西学生寮を紹介し、この日のスケジュールを終えた。

同じ悩み、熱心に語り合う

今年も飛行機利用者が多いためか、12時30分の受け付け開始時には、閑散としていた。それでも、羽田空港から参加者に乗せたバスが到着するたびに、受け付けは多忙を極める。

午後1時15分、全員到着して開会式。20年度の「つどい」の幕開けだ。

まず、石橋健一専務理事があいさつ。

「つどいには40年の歴史があります。かつては奨学生のみでしたが、保護者も参加するようになって今年で10年目です。この後懇談会を開きますが、近年改善された奨学金選抜制、進学準備金の貸与時期を早める、関西に学生寮を開設するなどの、この懇談会でお母さん方から出されたご意見が、21世紀に羽ばたくための「学習法」。

「21世紀は、専門家の世紀になるから、皆さん方も専門家を指してほしい。専門家といっても、普通の能力の人間でも、人生をかける気で努力すれば到達できる。大切なのは、自分の将来のためにどれだけ時間を捻出できるか。大切な時間を自己管理し、学ぶ面白さを理解し、その過程を楽しんでほしい」

流暢な日本語で、理路整然と語るフランクルさんの口調に、衣装とのアンバランスも忘れて聞きほれてしまう。最後に、お得意のジャグリングを披露し、会場は一気に和む。

休憩後の午後4時から、奨学生、保護者各6グループに分かれて懇談会を開いた。

奨学生グループで卒業後の進路を聞くと、今年の奨学生は大半が大学、短大、専門学校などの進学希望だった。将来希望する職業は、学校の先生、弁護士、ツアーコンダクター、理学療法士など多種



















